

講師資格認定オーディション『筆記試験対策』 ～オルガン科編～

先月号のピアノ科に引き続き、今月号ではオルガン科講師資格認定オーディションの筆記試験について、特に正答率の低かった問題を取り上げ、解説していきます。この解説を参考にして解答のポイントなどを知り、今後の対策に役立ててください。

[R5]

実際の音楽を聴いて楽器の編成や音楽ジャンルを答える問題や、旋律・リズム・和音聴取は、かなり良くできていました。一方、正答率が低かったのがオルガンの機能に関する問題、メロディー譜の指示された箇所に適したコードを選択する問題です。コード付けは、アレンジの基礎となる問題です。問われているメロディーだけでなく、前後のコード進行にも目を向け、総合的に判断する力が必要となります。

また、音楽史・一般知識を問う問題は設問によって正答率に差が見られました。普段から視野を広げ、クラシックやラテン、楽器や音楽用語など、さまざまなジャンルに幅広く興味を持つよう心がけましょう。

提示された楽譜の中の、線で結ばれた2音間の音程を答える問題では、調号や同小節内の臨時記号によって派生した音を含んだ音程で、半数の方が点を落としていました。音程自体は理解されているようですので、判定する前に、まずその音に変化記号が付いていないか確認しましょう。

IV. (1) 次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 23. ミュージック・アトリエのレジスト1で Regist Shift (レジスト・シフト) を RIGHT に設定した場合、レジスト2で、右フット・スイッチに割り当てた Fill In 機能を使うことは可能である。

設問 24. ミュージック・アトリエ AT-80S のペダル鍵盤では、和音は演奏できない。

正解：設問 23. ×

設問 24. ×

<設問 23> フット・スイッチにはL/Rそれぞれに様々な機能を割り当てることができ、[Regist Shift] の設定を「RIGHT」や「RIGHT + Load Next」(もしくは「LEFT」) に設定した場合は、右(もしくは左)フット・スイッチはレジストレーション切り替え専用スイッチとなり、右(もしくは左)フット・スイッチに割り当てられたその他の機能は無効になります。「Regist Shift」の機能を使うときは、注意が必要です。

<設問 24> 初期設定では、ペダル鍵盤は単音で発音するようになっていますが、「PedalBass Mode」の設定を「MONOPHONIC」から「POLYPHONIC」に切り替えることで、複音での発音が可能になります。

IV. (3) 次の文章の中の□にあてはまる言葉をそれぞれ①～

③より選び、番号で答えなさい。

設問 28. 同一のコードが連続している部分に装飾的に用いる慣習的なラインを□(28)・ラインという。

①カウンター ②コード ③クリシェ

正解：③クリシェ

一番正答率が低かった問題です。正解の「クリシェ」とはフランス語で「慣用句」という意味で、クリシェ・ラインは「カウンター・ライン」の一種ではありますが、中でも特に同一のコードが連続するとき、単調な進行を避けるために使われる定型的なラインを指します。和音の第5音から#5th→6th…のように上昇するもの、根音からmaj7th→7th→6th…のように下降するものが代表的です。

[R4]

全体的には目立って正答率の低い問題はほとんどなく、どの項目もよく理解されていました。ただし、コード・ネーム、ディグリー・ネームに関する問題では多少点を落とされた方がいたので、解説を参考にしてより理解を深めましょう。和音聴取では音程の跳躍がある部分で聴き取りにくいと感じた方が多かったようです。

IV. (1) 次の文章の□にあてはまる言葉を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 21. クラリネットは、□(21) で音を出す木管楽器である。

①リードなし ②シングル・リード

③ダブル・リード ④マウス・ピース

正解：②シングル・リード

楽器の構造に関する問題です。リードとは、管楽器などに用いられる薄片(はくへん)のことで、吹き込まれた空気によって振動し音を発します。シングル・リードは一枚のリードが振動する形式で、クラリネットやサクソフォーンに用いられます。ダブル・リードは二枚のリードを重ね合わせて作られたもので、オーボエ、ファゴットなどに用いられます。またマウス・ピースは、金管楽器であれば、口を当て息を吹き込むための部品を指し、木管楽器(ダブル・リードを用いる楽器を省く)であれば、リードを固定して口にくわえるための部品をいいます。

V. (1) 次の楽譜を見て、答えなさい。



(誌面の都合により5小節目以降省略)

◎楽譜中のコード・ネームのディグリー・ネームを①～⑦より選び、番号で答えなさい。

設問 33. B^b₆ ① I₆ ② II m₆ ③ III m₆ ④ IV₆

⑤ V₇ ⑥ VI m₆ ⑦ ^bIV₆

正解：④IV₆

へ長調でコード・ネームがB^b₆となっているので、主和音に対して完全4度の関係の和音であることがわかります。半数近くの方が「⑦^bIV₆」を選択していましたが、コード・ネームは曲の調に関係なく絶対的な和音を示すのに対し、ディグリー・ネームは主調に対してどのような音程関係にあるかを示す相対的な和音の表記法で、この場合は^bIVではなくIVと表記します。

V. (2) 次の和音にあてはまるコード・ネームを選択肢より選び、番号で答えなさい。

設問 40.



〔選択肢〕

- ① D^b₆ ② D^b_{maj7} ③ D^b_{m6q}
 ④ D^b_{m7} ⑤ D^b_{m7 (b5)} ⑥ D^b₇
 ⑦ D^b_{aug7} ⑧ D^b_{dim7}

正解：⑥ D^b₇

ルートに対して 3rd (F音) が長 3 度であることと、7th (C^b音) が短 7 度だということから、この和音はセブンス・コードであると推測できますが、今回約半数の方が⑦ D^b_{aug7} と解答していました。おそらく 5th が省略されていることから、判断に迷ったのだと思われます。しかしここで重要なのは、セブンス・コードの 5th は省略できるのに対し、オーグメントの 5th は省略できないということです。省略してしまうと、オーグメントの特徴であるルートと 5th による増 5 度の響きが失われてしまいます。よって解答は⑥ D^b₇ になります。

VI. (2) 次の問いに、○×で答えなさい。

設問 43. 講師養成コースを指導できるのは、講師資格 R2 以上の保有者である。

正解：×

RMS 音楽教室では、講師養成コースを指導できるのは、講師資格 R3 以上の保有者と定められています。各講師資格には、それぞれ指導範囲が設定されています。これらは講師の方々にはぜひ知っておいてほしい知識ですので、しっかりと把握しておきましょう。

[R3]

毎回の傾向ですが、聴音課題が苦手な方が多いようです。基本的な聴取方法を R2 の解説に書きましたので、そちらを参考にしてください。今回 R3 の解答では、旋律や和音聴取でオクターブ高くあるいは低く取ってしまった解答や、途中から高さが 1 音ずつずれてしまっている解答、リズム聴取では拍が半拍もしくは 1 拍ずつずれている解答などがありました。高さについては音感を鍛える訓練が必要ですが、途中から音高や拍がずれていってしまうのは、1 回目を聴取する際に、まず各小節の頭 (1 拍目の音高やリズム) を取るようにすれば防ぐことができるでしょう。聴き方で随分取りやすさが変わってくるので、工夫してみましょう。

筆記課題については、項目によっての正答率の偏りは見られず、比較的良くできていました。中には多くの方がつまずいた問題がありましたので、解説とともに見ていきましょう。

III. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。



(誌面の都合により 3 ~ 4 小節目のみ抜粋)

設問 13. 曲中の (13) に囲まれた音の種類を選択肢より選び、番号で答えなさい。

〔選択肢〕

- ①倚音 ②補助 (刺繍) 音 ③先取音 ④掛留音
 ⑤経過音 ⑥保続音

正解：⑥保続音

半数以上の方が「④掛留音」を選んでいました。タイで繋がれているのを見て、思わず「掛留音」と答えたくてしまいましたが、掛留音は、前の和声音の一部が引き延ばされ、次の和音と不協和になった後、本来進むべき音へ (たいていの場合は 2 度下行して) 解決しなければなりません。一方、保続音は、他の声部の和声進行に関わりなく、同度音を保持する音をいいます。設問 13 の C 音を見ると、前の I 度の和声音が引き延ばされて不協和を形成しているものの、本来の V 度の和声音に解決されないまま、次の I 度の和声音へ保持されているので、掛留音ではなく保続音であることがわかります。非和声音を見極めるには和声の分析が不可欠ですので、該当声部だけでなく、他声部の動き、また前後の進行にも目を向けてください。

IV. (1) 次の文章の中の [] にあてはまる言葉をそれぞれ①~④より選び、番号で答えなさい。

設問 17. チャーリー・パーカーは、有名な (17) 奏者で、代表曲のひとつに『ナウズ・ザ・タイム』がある。

- ①サクソフォーン ②トランペット
 ③トロンボーン ④ピアノ

正解：①サクソフォーン

ここではクラシック、ジャズ、ラテン、楽器など、音楽全般にわたって出題されます。

チャーリー・パーカーは、スウィング・ジャズ全盛の時代に、モダン・ジャズの原形となるいわゆる「ビ・バップ」スタイルを生み出し、当時のジャズ・シーンを大きく塗り替えた革命児として知られています。ジャズやラテンなどの分野は、得意不得意が分かれるところですが、有名なプレイヤーや演奏楽器、代表的な作品を押さえていれば答えられる内容となっています。ジャズであれば、「ラグタイム」に始まり「ニューオリンズ (ディキシーランド・ジャズ)」、「スウィング」、「ビ・バップ」、「モダン」と、時代の変遷に沿ってまとめたり、ラテンであれば「タンゴ」、「マンボ」、「サンバ」、「ボサ・ノヴァ」などのリズム・スタイルごとに、それぞれ特徴や代表曲を挙げてみましょう。

IV. (2) オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 22. トレミュラント (トレモロ + ビブラート) は、ジャズ・オルガン特有の効果の一つである。

正解：×

オルガンの機能に関する問題です。設問 22 は、残念ながら正解者ゼロでした。問題になっている「トレミュラント」効果は、19 世紀後半から 20 世紀にかけて、無声映画の伴奏用としてアメリカ全土で活躍した「シアター・オルガン」の特徴の一つです。オルガンの仕組みや特徴を知るとは、豊かな演奏表現やより良いアレンジをするうえでとても大切です。『ローランド・オルガン ミュージック・アトリエ ガイドブック』にも様々なオルガンについての詳しい説明が書かれていますので、参考にしてください。

[R2]

聴音課題以外はどの項目もよく理解できていて、特にオルガンに関する問題がとてよくできていました。実際に音楽を聴いて答える問題では、音楽のジャンル、編成、リズムなど幅広い知識が必要とされるので、日頃から音楽に対してさまざまな興味を持って接するように意識しましょう。

筆記課題の、オーケストラ曲の楽譜を見てコード・ネームを答える問題では、スコアリーディングの力も試されます。今回は正解者がいませんでした。おそらく、移調楽器のパートに付けられた変化記号(♯、bなど)を、実音に置き換える際、正しく移調できなかったために間違ったコード・ネームを選択してしまったようです。枠で囲まれた音だけでなく、同じ小節内で既に変化記号が付いていないか確認するなど、基本的なところでミスをしないように注意しましょう。

<聴音(旋律、リズム、和音聴取)のポイント>

R3から解答形式が書き取りとなる聴音課題では、毎回正答率が低い傾向にあります。もう一度、聴音の基本的な取り方を確認しましょう。

1. 利き手と反対の手で拍をしっかりと刻む

3拍子の場合、1拍目を中指、2拍目を人差し指、3拍目を親指で、4拍子の場合、1拍目を薬指から始めて、机もしくは体を叩き正確に拍をカウントします。

2. 1回目の聴取は各小節の頭の音、または休符を書く

拍のカウントを頼りに、「リズム」や「各小節の頭の音以外の音」は無視するくらいの気持ちで、各小節の1拍目の音だけに集中しましょう。発音されなかった場合は休符なのか、小節線をまたいだタイなのかを見極めましょう。

3. 各小節の頭の音が取れたら、細部を埋めていく


各小節の頭の音を意識しながら、まずは音の高さを書き込みます。続いて各拍頭にあたる音を探し、リズムを判断していきます。


4. 空白の小節が無いようにする

楽譜中にたとえ一拍分でも空白があると、不完全小節となり、未完成とみなされます。できる限り音符を書き込むよう努力しましょう。

また、和音聴取(R3)では各声部ごとに聴き取っていくのが良いでしょう。まず、比較的聴き取りやすい外声(ソプラノ、バス)から順に書き取ります(なるべく最初の2回の演奏で両外声を書き取りましょう)。そして残りの回数で内声を埋めていきます。

Ⅲ.(2)楽器について、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 15. チェロの最低音は  である。

設問 16. ホルン (inF) の最低音(実音)は、一般的に  である。

正解: 設問 15. ×

設問 16. ×

楽器の音域に関する問題です。まずチェロの最低音ですが、正しくは、楽譜に記されている音の1オクターブ下のC音です。ちなみにヴィオラの場合は、この楽譜に記されている音が最低音となるので、チェロの音域と共に覚えておきましょう。

続いてホルン (inF) の最低音は、へ音記号の下第3間に記されるB音です。また、ペダル音によって、このB音より低い音を出すことが可能で、問題の楽譜で示されているF音のさらに1オクターブ下の音を出すことができます。